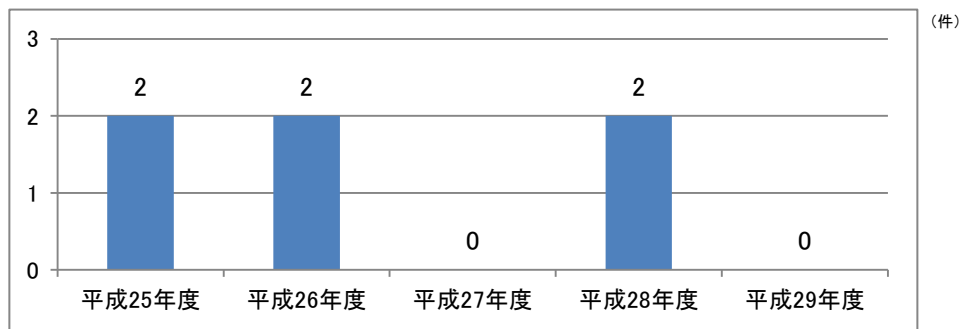


7 臓器移植件数(心臓・肝臓・小腸・肺・膵臓)

○項目の解説

臓器移植を行える施設は限られています。そのため臓器移植は、高度な医療技術、経験のある医療職、十分な設備を持つ国立大学附属病院の社会的責任の一つといえます。腎移植はすでに定着した技術ですが、心臓・肝臓・小腸・肺・膵臓の移植はまだまだ難しい問題が多々あります。心臓・肝臓・小腸・肺・膵臓の臓器別の件数は少ないので、ここではこれら五臓器の合計数を示します。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

当院の肝移植施行の推移ですが、平成23年度、当院の初めての生体肝移植、さらに再移植を合わせて2例を行い、その後も平成25年度、平成26年度、平成28年度に2例と計8例の生体肝移植を行ってきました。平成29年度は候補者がおらず、肝移植は行っていません。日本全国の傾向を見ても生体肝移植は伸び悩んでおり、北海道においてはそれが顕著な傾向があります。脳死移植への過度な期待があったり、働く世代の子供から親への移植が難しくなっていることも移植が増加しない要因と考えております。

○定義

当該年度1年間の、心臓・肝臓・小腸・肺・膵臓の移植件数です。同時複数臓器移植の場合は1件とします。

○算式

実数